

慶応義塾大学 小熊英二 研究会 卒業プロジェクト 2

タイトル：「都立夜間定時制統廃合と多部制定時制高校の誕生によって生じた問題について」

学校名：慶応義塾大学

学部・学年：総合政策学部 4年

所属研究会：小熊英二 研究会

学籍番号: 71104642

氏名： 鈴木 優

～目次～ p2~4

■ 0部 本研究の要約 5p

■ 1部 2000年代の都立定時制高校統廃合によって起きた問題について 5p

・序論 5p

研究目的 5p

研究対象・研究方法 5p

先行研究 6p

・本論 6p

1章 都立高校について 6p

1-1 都立全日制高等学校の変遷 6p

1-2 都立定時制高等学校の変遷 7p

2章 都立定時制高校統廃合について 8p

2-1 都立定時制普通科の統廃合について～2000年統廃合以前の特徴～ 8p

2-2 都立定時制普通科の統廃合について～2014年統廃合完了後の特徴～
9p

2-3 統廃合から新しく誕生した多部制定時制高校について 10p

3章 定時制高校入試について p12

3-1 東京都における高校学校受験について p12

3-2 定時制高校の意義と倍率について p12

3-3 定時制高校二次試験倍率の変遷 p13

3-4 表から考察出来ること～倍率が出た原因～ p14

4章 八王子市と定時制高校統廃合について p15

4-1 八王子市の定時制高校の倍率について p15

4-2 近隣の夜間定時制高校に駆け込む、八王子市の生徒たち p15

・結論 p16

本研究のまとめ p16

本研究の限界 p17

■ 2部 都立多部制定時制高校が抱える課題について p17

・序論 p17

研究目的 p17

研究対象・研究方法 p17

先行研究 p17

・本論 p18

1章 定時制高校について p18

1-1 定時制高校の誕生

1-2 定時制高校の変遷～生徒における勤労の変容～ p18

1-3 定時制高校の変遷～生徒像の変容と原因～ p18

2章 多部制定時制高校について p19

2-1 東京都における多部制定時制高校の誕生 p19

2-2 多部制定時制高校の代表的な特徴 p19

3章 聞き取り調査による多部制定時制高校が抱える問題について p19

3-1 聞き取り調査の概要について p19

3-2 各設問の選定理由 p20

3-3 聞き取り調査の結果について p20

3-3-1 都立荻窪高校 p20

3-3-1-1 都立荻窪高校の概要 p20

3-3-1-2 聞き取り調査の結果 p21

3-3-2 都立一橋高校 p22

3-3-2-1 都立一橋高校の概要 p22

3-3-2-2 聞き取り調査の結果 p23

3-3-3 都立新宿山吹高校 p24

3-3-3-1 都立新宿山吹高校について p24

3-3-3-2 聞き取り調査の結果 p24

3-3-4 都立砂川高校 p25

3-3-4-1 都立砂川高校の概要 p25

3-3-4-2 聞き取り調査の結果 p26

3-4 結果の考察とまとめ p27

4章 多部制定時制が抱える課題についての具体的な考察 p28

4-1 倍率について p28

4-1-1 多部制定時制高校の倍率の変遷 p28

4-1-2 表に対する考察 p30

4-1-3 まとめ p30

4-2 意志統制の難しさ p31

- 4-2-1 多部制定時制高校における制服について p31
 - 4-2-1-1 夜間定時制高校と制服の関係 p31
 - 4-2-1-2 都立多部制定時制高校と制服の関係 p31
 - 4-2-1-3 制服の扱いに対する各学校の見解 p32
 - 4-2-1-4 常時着用するようになった経緯と問題点 p33
 - 4-2-1-5 まとめ p33
- 4-2-2 多部制定時制高校における生徒指導について p33
 - 4-2-2-1 各部による指導観の違いと生徒指導 p33
 - 4-2-2-2 生徒指導に対する考察 p34
- 4-2-3 意志統制を阻害する原因について p34
 - 4-2-3-1 多部定時制高校の教員数について p34
 - 4-2-3-2 多部制定時制高校の環境について p34
 - 4-2-3-3 まとめ p35

・ 結論

本研究のまとめ p35

本研究の限界 p36

■ 謝辞 p36

■ 参考資料 p37

0部 本研究の要約

本研究は、2000年代に起こった都立定時制高校統廃合と、伴って多く誕生した多部制定時制高校に、どのような課題があるか調査したものである。

1部「2000年代の都立定時制高校統廃合によって起きた問題について」では、2章からどのように定時制統廃合が起こったか説明している。3章では、前章の統廃合に伴って、入試倍率にどのような変化が起きたのか説明している。結果としては、全体的、地域的に定時制高校が減ったので、経済不況が起こると高い倍率が出てしまうことがわかった。また、区外の特定地域では、常に高い倍率が出てしまうことも確認された。4章では、統廃合により夜間定時制の枠が少なくなった、八王子市について説明している。結果として、八王子市の生徒は、近隣の夜間定時制高校に多く在籍するようになった。

2部「都立多部制定時制高校が抱える課題について」では、3章から多部制定時制高校で働く教員に対して聞き取り調査を行い、抱える課題を調査した。結果として、多部制の制度によって、教師も生徒も意志統制が難しくなることがわかった。4章では、意志統制の難しさについて、具体的に文献や資料を基に調査した。結果として、前章で挙げた難しさは、会議、生徒指導、情報共有などの場において出ることがわかった。また、多部制という「多くの教員と生徒が必要となり、それらが1日中動く」制度と各校の学校環境が合わず、上記した問題が生じていることがわかった。

1部 2000年代の都立定時制高校統廃合によって起きた問題について

序論

● 研究目的

本研究は、2000年代に実施された都立定時制高校統廃合によって、どのような問題が起きたのか調査することを目的としている。特に、高等教育の保証という観点に立ち、入試倍率にどのような変化が起きたのか、生徒にどのような変化が起きたのか注目する。

● 研究対象・研究方法

研究対象は、都立学年制定時制普通科高校とする。

研究方法に関しては、文献や資料を用いて、統廃合前後で定時制高校がどのように変化したか比較する。

● 先行研究

私の管見によれば、東京都の定時制高校統廃合がどのような影響を与えたかについての研究は見当たらない。しかし、定時制高校統廃合に反対し続けている団体として、「都立定時制高校を守る会・連絡会」が活動している。

本論

1 章 都立高校について

ここでは、東京都の高校について説明する。平成 26 年度において、東京都は高校が 431 校あり、そのうち国立が 6 校、公立が 188 校、私立が 237 校である¹。

1-1 都立全日制高等学校の変遷

ここでは、1995 年度から 2014 年度までの、都立全日制高等学校の変遷について説明する。基本的なデータは、以下の通りになる²。

年度	学校数	学級数	生徒数	東京都公立中学校の 中 3 年生徒数	教諭数
1995	215	4103	161090	92400	資料なし
2000	214	3699	141393	82744	10756
2005	204	3280	122837	72435	9847
2008	203	3110	116084	73397	9336
2009	195	3120	116866	77253	9268
2010	192	3167	119038	74205	9284
2011	191	3177	120099	76178	9313
2012	189	3208	121539	76471	9418
2013	188	3203	121197	78195	9394

ここから導けることは、大きく分けて 2 つある。

1 つ目は、高校数が増えず年々減少していることである。特に、2000 年から 2013 年にまでに 26 校減っている。

2 つ目は、2005 年度までは減少し続けた「学級数」、「生徒数」が、2008 年度からは増加

¹ 東京都総務局統計部 「平成 26 年度学校基本調査 高等学校」

² 東京都総務局統計部 「平成 12 年度、平成 17 年度、平成 25 年度 学校基本調査」
項目「高等学校」、「中学校」より筆者作成

していることである。

つまり、2000年代後半から2010年代前半の都立全日制高等学校は、年々増加する生徒に対して、「学校は増設せずに、学級数を増やすことで対処する」という方針で運営しているのである。

1-2 都立定時制高校の変遷

ここでは、1995年度から2014年度までの都立定時制高等学校の変遷について説明する。学校に関する基本的なデータは、以下の通りになる³。

年度	全日制+定時制 併設校数	定時制のみ	全日制のみ
1995	103	6	106
2000	94	7	113
2005	86	10	108
2007	71	23	112
2008	58	23	122
2009	53	19	123
2010	42	13	137
2013	42	13	133

年度	生徒数	生徒数（区部）	生徒数（市部）
2000	13546	9874	3534
2005	13232	9559	3549
2008	13579	9952	3517
2009	13961	10207	3646
2010	14504	10620	3767
2011	14765	10713	3720
2012	14558	10332	3618
2013	14077	11703	3618

ここから導けることは、大きく分けて4つになる。

1つ目は、全日制と定時制を併設している高校が、定時制課程を2000年代から廃止して

³ 東京都 「学校基本調査 平成12年度、平成17年度、平成22年度」 項目『高等学校』より筆者作成

いることである。具体的な数値で説明すると、15年の間（1995年から2010年まで）に61校減少している。

2つ目は、『全日制のみ』の高校が増えたことである。その理由は、定時制課程を廃止した結果、全日制だけが残るためである⁴。

3つ目は、廃止された複数の定時制課程が統合されて、新しく多部制定時制高校として扱われたことである。よって、『定時制のみ』と書かれた項目が増えている。本研究の2部で扱う多部制定時制高校も、2000年代後半に多くが誕生し、ここに該当する。

4つ目は、定時制高校の生徒数が増加傾向にあることである。特に、2009年から2011年までに増えている。また、地域で観れば、区部で大きく生徒数が増加している。一方で、市部に関しては増えているが、その数は区部と比べて少ない。

2章 都立定時制高校統廃合について

2-1 都立定時制普通科の統廃合について～2000年統廃合以前の特徴～

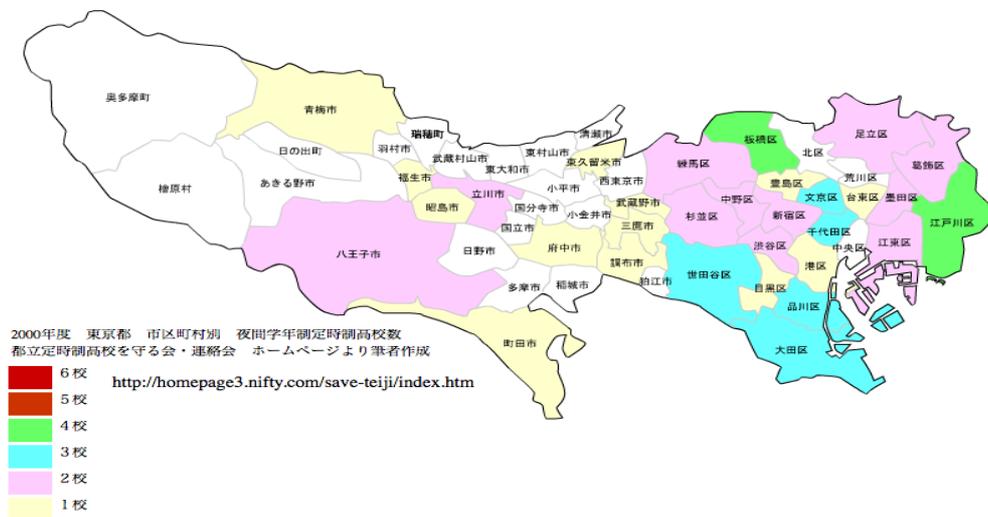
ここでは、前章で扱った東京都の定時制高校の統廃合について、地理的な観点から考察する。そのために、都立夜間学年制定時制高校（普通科）の学校数を、2000年と2014年で市区町村別に図示してみた⁵。

まず、2000年度における図が以下の通りである⁶。

⁴ もちろん、都立高校の全体的な学校数は減少しているのですが、新しく全日制の学校を建てる傾向ではない。

⁵ 都立八丈高校と都立大島高校は、両方の地図において省いている。

⁶ 都立定時制高校を守る会・連絡会ホームページ「定時制高校統廃合スケジュール」を基に筆者作成



2000年の大きな特徴としては、大きく分けて2つ述べる事が出来る。

1つ目は、23区内で夜間学年制定時制高校が多く存在することである。特に、江戸川区や板橋区では、4つの高校が区の中に存在している。このような状況であれば、その区に住む生徒（受験生も含む）や周辺に住む生徒は、複数の学校から自分に合うものを選択出来る。また、学校が近くにある場合には、通学かかる費用が比較的安く済ませられる。

2つ目は、23区外や多摩地区においても、夜間学年制定時制高校が広く存在することである。特に、八王子市や立川市には、2校の夜間普通科定時制高校が市内に存在している。青梅市に関しても、市内に1校存在している。

2-2 都立定時制普通科の統廃合について～2014年統廃合完了後の特徴～

東京都の定時制統廃合は、2010年に完了した。そこで、2014年時点で調べた、夜間学年制定時制高校（普通科）の学校数が以下の通りになる。

制定時制単位制総合学科(以下チャレンジスクール)」と「多部制定時制単位制普通学科¹⁰(以下多部制定時制高校)」に分かれている。地図で示すと以下の市区町村に設置された。



※ 新宿山吹高校に関しては、統廃合をしていない。

ところで、チャレンジスクールと多部制定時制高校の大きな違いは、学科と入試内容と設立目的である。

まず、前者は、総合学科であり、職業系を含め複数の専門科目を置いている。後者は、普通科の定時制高校である。

そして、前者は教科による試験は行わず、面接、作文、志願申告書を基に入学試験が行われる。後者は、教科のテストや調査表を基にしている¹¹。

他にも、前者は設立目的を「小・中学校での不登校や高校での中途退学を経験した生徒など、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする学校¹²」としている。一方で、後者は設立目的を「多様化する生徒の実態に対応するとともに全定併置校の課題解決のため¹³」としている。

¹⁰ 東京都においては、昼夜間定時制高校と呼んでいる

¹¹ 八王子拓真高校においては、一定の数の生徒をチャレンジスクールと同様の方式で選抜している。

¹² 東京都教育委員会 新しいタイプの都立高校の紹介パンフレット

「夢をかなえる学校選び」項目 チャレンジスクール

http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/pickup/p_gakko/kanaerugakko/pamphlet2.htm#challenge

¹³ 東京都教育委員会 「昼夜間定時制高校(新たなタイプ)基本構想検討委員会報告書」平成15年 4月 p2

3章 定時制高校入試について

3-1 東京都における高校学校受験について

ここでは、東京都の高校受験がどのように行われているのか説明する。流れとしては、以下の通りとなっている。

日時	受験期間・受験形式	合格発表
1月下旬	都立・私立高校推薦試験	2月初旬
2月中旬	都内私立高校一般入試	翌日から 2月下旬まで
2月下旬	都立高校一般入試 (夜間定時制・多部制定時制高校含む)	3月上旬
3月上旬～中旬	都立高校一般入試 分割後期募集・全日制第二次募集 (夜間定時制は含まず、多部制定時制高校は含む)	3月中旬
3月下旬	定時制高校二次募集 (主に夜間定時制)	3月下旬 後半
4月上旬～	定時制高校三次募集 (二次試験でも定員割れした高校)	適宜

つまり、「3月まで」を1つの基準としてみた場合、最大で5種類の試験を受けることが出来るのである¹⁴。もちろん、これはあくまで家庭の経済的な状況や受験する生徒の成績を考慮しない場合に成り立つ。生徒によっては、私立高校が公立に比べて学費が高いことを理由に、受験を避ける場合もある¹⁵。

3-2 定時制高校の意義と倍率について

定時制高校にとって、「入試倍率」の低さは重視されるものである。中でも「二次試験」においての入試倍率が重要視される¹⁶。

¹⁴ もちろん、近隣にある県の私立高校も同時期に試験を行っている。なので、受験をすれば回数を増やすことが出来る。

¹⁵ 全教、日高教、全国私教連が2008年の国際的な不況を受けて行った「入学金・授業料・教育費 緊急ホットライン」(2009年3月7～8日開催)では、全国各地から110件の相談が寄せられた。その中には「私立高校への進学が決まっているが入学金のめどがたたない」という相談もあった。

出典 全日本教職員連合 ホームページ

http://www.zenkyo.biz/modules/zenkyo_torikumi/detail.php?id=137

¹⁶ 例えば、都立定時制高校を守る会・連絡会は、2009年に都議会文教委員へ緊急要請文を送っている。その中で、定時制が行き先を失った生徒たちを受け入れるセーフティネットと表現している。また、入試倍率も1倍を超えることがなく、希望する生徒受け入れてき

その理由は、大きく二つに分かれる。まず、定時制一次試験においては、大半の高校が定員割れを起こすからである。定員に届かず、受験すれば合格するので、「入試倍率」が問題になることはない。

次に、二次試験が、都立高校受験を3月以内に受けられる最終チャンスだからである。そもそも、定時制高校の入学動機としては「高等学校の卒業資格が必要だと思ったから」、「全日制高等学校を受験したかったが、合格する自信がなかったから」、「全日制高等学校を受験したが、合格しなかった」という回答が合計50.9%にも上る¹⁷。だからこそ、多くの生徒が二次試験に駆け込む。そこで、彼らに対して高等教育の機会保証を考慮すると、入試倍率は低い方が好ましいとされるのである。

3-3 定時制高校二次試験倍率の変遷

ここでは、前項を踏まえて、東京都における定時制高校二次試験の倍率の変遷（2009年から2014年まで）を、定時制高校統廃合と多部制定時制誕生と関連させて考察する。

定時制二次試験の日程は、夜間定時制高校と多部制定時制高校に分かれるが、ここでは夜間定時制高校について取り上げる¹⁸。2009年から2014年までの二次試験倍率は以下の通りになる¹⁹。

市 区 町 村 名	学校名	2009 年 倍率	2010 年 倍率	2011 年 倍率	2012 年 倍率	2013 年 倍率	2014 年 倍率
品川	大崎	0.37	0.52	0.67	0.36	0.33	0.26
	小山台	0.52	0.96	0.51	0.43	0.50	0.50
大田	大森	0.61	<u>1.49</u>	0.97	0.43	0.92	0.33
	雪谷	0.17	0.86	0.12	0.21	0.13	0.29
世 田 谷	桜町	0.38	<u>1.29</u>	0.69	0.93	0.54	0.13
	松原	0.67	<u>1.12</u>	0.94	0.73	0.21	0.38
豊島	豊島	<u>1.10</u>	<u>1.76</u>	<u>1.73</u>	0.69	<u>1.06</u>	0.59
板橋	大山	<u>1.21</u>	<u>1.79</u>	<u>1.35</u>	<u>1.25</u>	0.90	0.89

たと述べている。

出典：<http://homepage3.nifty.com/save-teiji/yousei20090819.pdf>

¹⁷：平成23年度文部科学省委託事業「高等学校定時制課程・通信制課程の在り方に関する調査研究」

それぞれの項目の内訳は、30.4%、7.6%、12.9%となっている。

¹⁸ 多部制定時制高校の倍率については2章に記述しているので参照

¹⁹ 東京都教育委員会 「平成21~平成26年度 定時制第二次募集応募状況より」筆者作成

足立	足立	<u>1.06</u>	<u>1.80</u>	<u>1.60</u>	0.82	0.79	0.45
	江北	0.98	0.87	0.90	0.92	0.73	0.44
葛飾	南葛飾	0.54	<u>1.33</u>	<u>1.08</u>	<u>1.12</u>	0.86	0.47
	葛飾商業	0.74	<u>1.21</u>	0.60	0.80	0.76	0.47
江戸川	江戸川	<u>1.63</u>	<u>2.14</u>	<u>2.50</u>	<u>1.25</u>	<u>1.83</u>	0.76
	葛西南	<u>2.14</u>	<u>1.76</u>	<u>3.00</u>	<u>1.30</u>	<u>2.42</u>	<u>1.17</u>
立川	立川	<u>3.05</u>	募集なし ²⁰	<u>2.44</u>	<u>6.00</u>	<u>2.07</u>	<u>1.48</u>
府中	農業	<u>1.67</u>	<u>1.14</u>	<u>1.64</u>	0.87	0.80	0.60
調布	神代	<u>1.36</u>	<u>2.24</u>	<u>3.50</u>	0.41	0.49	0.50
町田	町田	<u>1.55</u>	<u>2.00</u>	<u>2.36</u>	<u>1.00</u>	<u>1.06</u>	0.76
福生	福生	<u>1.48</u>	<u>1.86</u>	<u>1.54</u>	<u>1.71</u>	0.83	0.62

3-4 表から考察出来ること～倍率が出た原因～

この表から考察出来ることは、以下の通りになる。

まず、江戸川区、板橋区を除く、区内夜間定時制高校の倍率が低いことである。特に、品川区、大田区、世田谷区、足立区、葛飾区においては、その特徴が顕著に出ている。これらの区は、定時制統廃合でも学校数が変化していない区と、区内に3校あるなかで1校だけ減った区である。つまり、他の区によりも倍率に影響しない。しかも、多部制定時制高校が周辺の区に新設されたので、生徒が駆け込むことも少なくなる。

次に、2009年、2010年、2011年度において、倍率が出た高校が増えたことである。これらの年(前後も含む)に起こった出来事は、リーマンショック(2008)、日経平均株価10000万円割れ(2009)²¹、完全失業率5%越え(2010)²²、高校無償化(2010年度入学生より)がある。つまり、原因の一つとして、世界的な経済不況から学費の安い全日制と定時制高校の需要が増え、統廃合後の残った定時制に生徒が駆け込んだのである²³。

さらに、多摩地区において、多く倍率が出ていることである。特に、立川高校については、倍率が出ていない年度がない。その原因について、私は「八王子市の生徒が、市内に

²⁰ 一次試験において、定員に達しているので実施せず。

²¹ Yahoo japan 日経平均株価より(2014年12月27日最終アクセス)

²² 総務省 労働局調査

²³ 大阪本社版朝日新聞 2009年10月19日では、「定時制不合格1174」人とあり、これを経済不況と結びつけている。

夜間定時制なくなったため駆け込んだから」という、定時制統廃合が関連する仮説を立てた。その検証を4章で考察する。

4章 八王子市と定時制高校統廃合について

4-1 八王子市の定時制高校の倍率について

八王子市においては、2000年までに2つの夜間定時制高校が存在した。しかし、統廃合の結果、多部制定時制高校である八王子拓真高校が誕生して、既存の夜間定時制（全日・定時に分けているもの）を持つ学校は廃止された。

もちろん、八王子拓信高校の3部は夜間課程であるために、八王子市では夜間における高等教育は開かれている。しかし、その倍率としては、前期募集が

	八王子拓真	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
	1部	2.61	3.75	3.11	3.17	2.94	3.31
	2部	2.42	2.75	2.56	2.17	2.39	2.53
	3部	1.71	1.58	1.79	1.79	1.50	1.54

となっていて、後期募集が

	八王子拓真	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
	1部	2.46	2.53	1.98	2.07	2.02	1.91
	2部	1.72	3.31	2.26	2.20	1.50	1.98
	3部	1.47	2.08	2.25	1.75	2.33	1.14

となっていて²⁴、3部では最低1.14倍から最高2.33倍までの倍率が出た。

4-2 近隣の夜間定時制高校に駆け込む、八王子市の生徒たち

このような状況であると、八王子市の生徒は、八王子拓信高校の前期・後期入試に落ちた場合、同市以外で夜間定時制のある立川高校など²⁵に向かわなくてはならない。

ところで、立川高校の夜間定時制において在籍している生徒の居住区の割合上位5位は以下の通りとなっている²⁶。

²⁴ 両者とも東京都教育委員会「平成21~26年度 都立高等学校割後期募集・全日制第二次募集 応募状況より」 筆者作成

²⁵ 他に多摩地区に限る場合は、農業、神代、町田、福生がある

²⁶ 都立立川高校 定時制課程 ホームページ 「在籍生徒内訳平成26年度」

<http://www.tachikawa-h.metro.tokyo.jp/teijisei/20110902/topframe.html>

市区町村名	生徒数
立川市	58
八王子市	56
東大和市	29
日野市	28
武蔵村山市	24

つまり、立川市の学校であるのに、隣接している市（八王子市）に住む生徒が、立川市に住む生徒とほぼ同数なのである。この結果は、23区内の夜間定時制高校の場合と大きく異なる²⁷。つまり、統廃合と新設校の高い倍率により、漏れ落ちた生徒が集まっているのである。

結論

● 本研究のまとめ

本研究によって、以下のことが導けた。

まず、2000年代の定時制統廃合によって、八王子市では多部制定時制高校3部に高い倍率が出た。その結果、周辺の夜間定時制に流れ込む生徒が増えたことである。

次に、2000年代の定時制統廃合によって減った夜間定時制高校は、深刻な経済不況が起こった時に高い倍率を引き起こすことである。実際に、2010年度には、都立定時制高校二次試験において、多数の不合格者が出た。そして、追加措置として、異例の追加募集が行われた(試験日は2010年4月15日)²⁸。

東京都の方針としては、夜間定時制の学級増や廃止した箇所の復帰という方策はとらない。各年度の公立中学校卒業生に合わせた全日制の生徒増減によって調整を行っている²⁹。しかし、経済不安というのは、規模や時期を簡単に予測できるものはない。今後も2010年に起きたような状態は起こりうる。

それを防ぐためにも、改めてその解決策の一つに「夜間定時制の復活や学級数の増大」、「全日制高校の新設」などを検討する必要がある。

²⁷ 参考資料(p37)参照

²⁸ 東京都教育委員会 「平成22年度東京都立高等学校定時制課程の第一学年生徒の追加募集について」

²⁹ 都立定時制高校を守る会・連絡会「東京都高等教育課長への申し入れ」2010年9月10日 <http://homepage3.nifty.com/save-teiji/yousei20100910.pdf>

● 本研究の限界

定時制や全日制の倍率については、その都道府県における私立と公立の学校数の割合と、地域の特徴に大きく左右される。つまり、定時制の統廃合を行えば、全ての都道府県が東京都のような状態になるとは限らない³⁰。

2部 都立多部制定時制高校が抱える課題について

序論

● 研究目的

この節は、都立多部制定時制高校が抱える課題について調査して、考察することを目的としている。

特に、多部制定時制高校が、東京都全体で本格的に実施されたのが、2000年代に入ってからであり日が浅い。また、研究についても実施されている数が少ない。

だからこそ、問題を調査して共有することに意義がある。そしてよりよい多部制定時制高校の在り方を考察する。

● 研究対象・研究方法

調査対象とするのは、都立多部制定時制高校 6校である。

調査方法に関しては、前段落で述べた高校の内 4校に聞き取り調査を実施して、抱える課題を調査した。その他、文献や資料などから、抱える課題について調査、および考察を行った。

● 先行研究

大谷、柿内、太田 (2009)は、現代における定時制高校の役割について調査した。その中で、新構想型定時制高校 (チャレンジスクール、エンカレッジスクール、クリエイティブスクール) にその実態や抱える問題について、聞き取り調査を行っている³¹。

³⁰ 東京都と同じようなケースが起こった例は、横浜市が 2002 年 5校あった夜間定時制を 3校廃止して、多部制定時制高校を作ったことである。この結果、140人の定員が減り、多部制定時制高校の高い倍率が影響して、今まで夜間定時制に通っていた層が通えなくなった。

出典:手島純「格差にゆれる定時制高校 教育の機会均等のゆくえ」2007年 彩流社 p106

³¹ 「現代における定時制高校の役割」 柿内 真紀, 大谷 直史, 太田 美幸

その結果、地方都市の多様化した定時制高校（新構想型など含む）は、受け入れられる生徒を都市のように絞れず、多様な生徒を受け持っていると述べていた。

本論

1章 定時制高校について

1-1 定時制高校の誕生

定時制高校とは、昭和 23 年度（学校教育法制定時）から設けられた制度である。「中学校を卒業して勤務に従事するなど様々な理由で全日制の高校に進めない青少年に対して高校教育を受ける機会を与える³²」という趣旨を持っている。

その多くは、夜間において授業を行う形態を採用している。また、学年制が主流であり、4年間学校で過ごす必要がある。他にも、多くの定時制が全日制と併置されていることがある。

1-2 定時制高校の変遷～生徒における勤労の変容～

前項で説明したように、定時制高校は勤労従事者に対して開かれたものである。1950 年度においては、高等学校の生徒の内、21.3%が定時制である程需要があった。しかし、進学率の上昇と就業従事者の低下により、2006 年度には高等学校の生徒数の内 3.1%にまで減少した³³。

また、定時制高校に通う生徒像も大きく変化した。昭和 57 年度には、定時制高校に通う生徒の 68.4%が定職を持ち、14.3%がアルバイトであり、17.3%が無職であった。それに対して、平成 23 年度では、定職を持っている生徒が 1.5%、アルバイトが 39.3%、無職が 58.0%であった³⁴。

1-3 定時制高校の変遷～生徒像の変容と原因～

ここでは、前項で述べた勤労従事者が変わって、新たに定時制高校に入学した層に対する説明を行う。

新しく入った層を一言で表現すると、複雑な背景を持ったものたちである。この層は、

鳥取大学生涯教育総合センター研究紀要 (6) 1-25 2009 年

³² 文部科学省 「定時制・通信制課程について」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/seido/04033103.htm

³³ 「格差社会にゆれる定時制高校 教育の機会均等のゆくえ」 手島 純 2007 年 彩流社 p95 表より

³⁴ 文部科学省 「高等学校教育部会（第 19 回）配付資料」 2013 年 p8~9

不登校経験者、母子家庭、父子家庭、外国籍、障害者（特別支援、学習障害）などの背景を持っている³⁵。つまり、約 3 割の不登校経験者を始めとして、勤労従者ではない生徒が、定時制高校に多く集うようになった。

2 章 多部制定時制高校について

2-1 東京都における多部制定時制高校の誕生

1 章で述べたような、生徒の変化により、定時制高校は 1990 年代から新たな在り方を模索する。東京都では、平成 3 年に昼間定時制独立校（以下多部制定時制高校）として、都立山吹高等学校（新宿山吹高等学校、2014 年現在は 4 部制になっている）を設立した。そこから、2000 年代にかけて多部制定時制高校の増設が顕著になっていく。

2-2 多部制定時制高校の代表的な特徴

多部制定時制高校とは、一般的に既存の夜間部(3 部)の授業時間を残しつつ、午前(1 部)と午後(2 部)に授業時間を設けて、生徒が自分の部を決める（各部の入試で合格して）定時制高校である。

他にも、既存の学年制ではなく、単位制を採用している。なので、生活に合わせて授業を組める。また、以前の学校で習得した単位の利用や、所属している部以外（通信制も含む）の授業を追加申請することにより、3 年間で卒業出来る（いわゆる 3 修制）。

東京都においては、多部制定時制高校は 11 校存在して、そのうち 6 校が普通科であり、5 校が専門教科（通称チャレンジスクール）も教える総合学科である。

ちなみに、今回の研究の対象とするのは、前者の普通科多部制定時制高校である。

3 章 聞き取り調査による多部制定時制高校が抱える問題について

3-1 聞き取り調査の概要について

この章では、筆者が 2014 年に都立多部制定時制高校 4 校で行った聞き取り調査について扱う。そこから、多部制定時制高校が抱える課題について考察する。

聞き取り調査は、大きく 5 つの設問に分かれる。「各部の生徒に対する印象」、「外国籍の生徒に対する印象・対策」、「多部制の制度が引き起こす課題について」、「地域との繋がり

³⁵ 脚注 34 p8~p9 平成 23 年度文部科学省委託事業「高等学校定時制課程・通信制課程の在り方に関する調査研究」

について」、「その他」である。これらの設問にした理由としては、以下に説明する。

3-2 各設問の選定理由

まず、「各部の生徒に対する印象」という設問については、部を新たに設けることによって、どのような生徒が集まったのかを考察するために設けた。特に、既存の夜間定時制と比較して、どのような印象を持つのか注目する。

次に、「外国籍の生徒に対する印象」という設問である。これは、既存の夜間定時制高校に複雑な背景を持つ生徒が在籍することから、同じ問題を抱えるのか、代表例として考察するために設けた。

「多部制の制度が引き起こす課題について」という設問は、部を設ける新たな取り組みが、学校全体にどのような課題を持たせるのか考察するために設けた。

「地域との繋がりについて」という設問は、学校を新設することや制度を変えることによって、地域と学校がどのように変化するか考察するために設けた。

3-3 聞き取り調査の結果について

3-3-1 都立荻窪高校

3-3-1-1 都立荻窪高校の概要

● 多部制定時制課程を設立した時期

元々は、1948年から全日制の授業を行っていた。当時の学校名は、杉並高等家政女学校であった。しかし、2005年には全日制の募集をやめ、2007年から多部制の定時制課程を行う³⁶。

● 多部制の特徴

各部における、教育内容の明確な違いは見当たらない。全体的な特徴は、外国籍や元不登校などの、複雑な背景を持つ生徒が在籍するので、生徒指導を熱心に行なっていることである³⁷。具体的な例としては、「授業中の携帯電話の使用禁止」、「遅刻指導」、「学校の規則を守ろう」などのスローガンなどがある。

● 生徒の進路

平成23年度においては、3年生全147人中、90人の進路が決まり、57人が未定と

³⁶東京都立荻窪高等学校 「校長挨拶」

<http://www.ogikubo-h.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/2/2.html>

³⁷ 同上

なった。決まった進路の内訳は、4年制大学が35人、短大が7人、専門学校が38人、就職が10人である³⁸。

● その他の特徴

地域と一体となった教育活動を行なっている。例えば、市民講師による科目を設けて、「日本文化」、「アニメーション基礎」、「演劇入門」、「社会福祉競基礎」、「広告表現」、「起業家入門」などの科目がある³⁹。これは、教育活動の一環にキャリア教育あるからであり、そのことを実現するために行われている。

3-3-1-2 聞き取り調査の結果

2014年7月8日に都立荻窪高校に赴いた。そして、教務のA（仮名）先生に聞き取り調査を行なった。A先生は、荻窪高校設立当初から現在まで勤めている。最初に調査に協力してくれたB（仮名）校長には、多部制定時制高校に詳しい人物と紹介された。

～各部の生徒に対する印象～

- ・1部と2部に関しては、全日制（学力的には下の方）とあまり変わらない。
- ・3部に関しては、既存の夜間定時制高校と似ている。しかし、異なる部分は20歳以上の生徒がいないこと。

～外国籍の生徒に対する対応～ ※聞き取り調査では伺っていない。

- ・「外国籍の生徒が入学して日本語の読み書きが苦手なために、授業に支障をきたす場合は、これまでに築いた東京女子大や関係機関と連絡をとり速やかに対策が取れるようにする」と平成25年度の学校経営報告には記述がある⁴⁰。

～多部制の制度が引き起こす課題～

- ・2部は朝起きれない子が集いやすい場だが、将来の進路として朝か夜に起きる必要がある。それでは2部で授業を行う必要性がわからない。
- ・朝から夜まで教室が使われているので、生徒が学校に止まる場所がない。
- ・教員は1部と2部で働く者（通称A勤）、2部と3部で働く者に分かれる（通称B勤）。なので、非常に忙しい。また、教員間の統制をするのも難しい。

³⁸都立荻窪高等学校 「平成23年度卒業生進路」

<http://www.ogikubo-h.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/4/file174.pdf>

³⁹ 都立荻窪高校 「school guide」 2013

⁴⁰ 都立荻窪高校 「平成25年度学校経営報告」 「課題」 学習について p6

・朝から夜まで教室が使われているので、生徒が学校に止まる場所がない。

～地域とのつながりについて～

・新設校と定時制というイメージが強く、地域に溶け込むまで時間がかかる。

～その他～

・学校設立時には、通信簿オール5をとる生徒など学力的に高い生徒が在籍していた。

・他にも、設立時には70歳の生徒など、既存の夜間定時制高校と同じく20歳以上の生徒が在籍していた。

・しかし、設立後には段々と集まる生徒の質が固まってきた（20歳以下の生徒だけがあつまり、学力はいわゆる底辺校並み）。

・現在在籍している生徒の中で学力的に、高い進路に進めるものは編入学者が多い。

3-3-2 都立一橋高校

3-3-2-1 都立一橋高校の概要

東京都立一橋高等学校 東京都千代田区東神田 1-12-13

● 多部制定時制を設立した時期

平成17年4月に、新たなタイプの昼夜間定時制課程と通信制課程のある単位制の高等学校として始まった。

● 三部制の特徴

ホームページによると、I部（午前）では、「しっかり学び、大学等への進学を目指す生徒に対応した教育活動を行います」と述べている。

II部（午後）では、「じっくり学び、進学・就職を目指す生徒や、部活動に励む生徒に対応した教育活動を行います」と述べている。

III部（夜間）では、「ゆっくり学び、就職・進学を目指す生徒や、部活動に励む生徒に対応した教育活動を行います」と述べている⁴¹。

● 生徒の進路

平成24年度においては、卒業生が126名であった。

そのうち、大学・短大が17%、専門学校が28%、就職13%、未定が42%だった。各部に

⁴¹東京都立一橋高等学校 「学校概要」

<http://www.hitotsubashi-h.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/15/14.html>

よる内訳は統計として出していなかった。

ちなみに、専門学校への進学方法は、AO 入試が 41%、指定校推薦が 13%、公募が 29%、一般入試が 17%だった。大学・短大への進学方法は、40%が指定校推薦であり、一般入試が 24%、AO 入試が 18%、公募が 18%だった⁴²。

3-3-2-2 聞き取り調査の結果

2014 年 10 月 15 日に都立一橋高等学校に赴いた。そして、C 副校長（仮名）に聞き取り調査を行った。ちなみに、この C 先生は 2014 年 4 月からこの学校に赴任している。

～各部の生徒に対する印象～

- ・ 1 部について：大人しい生徒が多い。生徒の大半が 3 年で卒業する。
- ・ 2 部について：行事や部活動で活発な生徒が多い。とはいえ、仮に 30 人生徒がいた場合、10 人が 3 年で卒業、10 人が 4 年で卒業、10 人が進路変更をするような、雑多な生徒が集まっている。
- ・ 3 部について：学校の位置が下町ということもあり、外国籍の生徒が多い。国籍としては、中国、フィリピンが多い。

～外国籍の生徒に対する印象・対応～

- ・ 外国籍の生徒が多いこともあり、習熟度別展開を行っている。特に、国語の中では日本語教育が選択教科としてある。

～多部制の制度が引き起こす課題～

- ・ 勤務形態が分かれている。よって、管理職の教員が、自身の勤務時間と違う教師の授業を見ることが出来ない。
- ・ 多部制と単位制の制度に慣れている教師が少ない。特に、複数学年の生徒がいる際、授業展開に困る教師がいる。
- ・ 多部制ということもあり、意志統制をする機会が限られている。

～地域との繋がりについて～

- ・ 多部制になってから OB・OG 会の加入率が下がる。

⁴² 東京都立一橋高等学校 「卒業生の進路」

<http://www.hitotsubashi-h.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/24/file319.pdf>

3-3-3 都立新宿山吹高校

3-3-3-1 都立新宿山吹高校について

東京都都立新宿山吹高等学校 東京都新宿区山吹町 81

● 多部制定時制課程を設立した時期（本校だけは4部制）

新宿山吹高校は、都立で初めての多部制単位制高校として 1991年4月に開校した。普通科と情報科を設置する定時制課程のほかに、通信制課程、社会人向けの生涯学習講座が存在する。定時制は、朝8時40分から夜9時10分までの時間帯を、1部から4部まで4つの部(4部のみ夜間)に分けている⁴³。

● 三部制の特徴

各部における特徴的な教育内容の違いはない。1部から4部までに分かれており、4部（夜間）のみ給食がある。設立目的としては、「生徒が自らの勤務条件や生活環境に合わせて学習時間帯を選択できるように、昼間に3つの部と夜間に1つの部を置いた4部制になっています⁴⁴」とある。

● 生徒の進路

平成24年度の進路実績によれば、四年制大学に進んだ生徒は全89人中33人である。各部による内訳は、1部が14人、2部が8人、3部が7人、4部が4人であった。また、専門学校には10人進み、内訳は1部が4人、2部が1人、3部が4人、4部が1人だった。その他、進学準備を選択したのは、1部が7人、2部が2人、3部が2人、4部が1人だった⁴⁵。

3-3-3-2 聞き取り調査の結果

2014年10月29日にD副校長(仮名)に聞き取り調査を行った。

～各部の生徒に対する印象～

- ・ 1部と2部と3部に関して真面目な生徒が多い。
- ・ 4部に関しては、学力のある夜間定時制のような印象を持っている。

～外国籍の生徒に対する印象・対応～

⁴³ 都立山吹新宿高等学校 「設置課程と日課表」

<http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/21/10.html>

⁴⁴ 同上

⁴⁵ 東京都立新宿山吹高等学校 「平成24年度卒業生の進路」

<http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/67/file177.pdf>

・あまり在籍していなく、問題になっていない。

～多部制の制度が引き起こす課題～

・学年を殆ど設けていなく、完全な単位制を採用した多部制なので、担任が生徒を受け持っていて、毎日接するわけではない。対策として、アルプ株式会社の学校教務システム「賢者」という情報管理システムを採用している⁴⁶。

・A 勤、B 勤の教師が揃う時間は、およそ13時から17時までと少ない。よって、意志統制がむずかしくなる。

・教員の人数が多いが、大きな職員室もないので、教員間で集まる時に大きな移動が必要である。

～地域とのつながりについて～

・地域の防災訓練に参加している。

・一方で、自由な校風であり、開校して長くないので、OB・OG会の組織が軽いものとなっている。

～その他～

・新しく校舎を建てて設立した高校のため、体が不自由な人でも通えるように、校内がバリアフリーになっている。

・複雑な背景を持った生徒が多いので、常駐のカウンセラーがいる。

3-3-4 都立砂川高校

3-3-4-1 都立砂川高校の概要

東京都立砂川高等学校 東京都立川市泉町 935-4

● 定時制を設立した時期

2005年度より、三部制の定時制高校となった。元々は、1979年に開校された全日制の高校であったが、2005年度に全日制が閉課して、定時制高校となった。

● 三部制の特徴

各部における、教育内容の明確な違いは存在しない。全体的な特徴としては、基礎

⁴⁶ 生徒が自身のIDカードを、学校内にある端末に読み込ませる事で、出席登録、配布物の確認、連絡事項などを確認出来る。

から大学入試に対応した授業展開を行なっていることである。特に国数英では、習熟度に応じたクラス分けを行っている⁴⁷。

● 生徒の進路

平成 24 年度の卒業生は、133 名の内、79 名が四年制大学へ進学した。短大は 3 人であり、就職は 14 名、専門学校は 42 名であった⁴⁸。

3-3-4-2 聞き取り調査の結果

2014 年 12 月 10 日に副校長 E（仮名）先生に聞き取り調査を行った。

～各部の生徒に対する印象～

- ・ 1 部について：全日制普通科（学力的には中～下）の生徒が集まる。生活面でしっかりした生徒が在籍する印象を持っている。
- ・ 2 部について：やんちゃで元気な子が多いという印象を持っている。しかし、学校行事にやる気があるわけではない。
- ・ 3 部について：大人しい子が集まる。既存の夜間定時制とはあまりかわらない。

～外国籍の生徒に対する印象・対応～

- ・ 外国籍の生徒は在籍しているが、日本語が喋れない生徒はいない。そもそもの問題として、立川市周辺に外国籍の生徒は少ない。
- ・ しかし、外国籍の生徒の保護者に関しては、日本語が喋れないことがある。そのため、やり取りが必要な場面で苦勞をする。

～多部性の制度が引き起こす課題～

- ・ 勤務形態が分かれるので、連絡事項を伝えにくい。その結果、意志統制が上手くいかなくなる。例えば、A 勤務内で決めた事を B 勤内で伝える際に、方法が限られる。
- ・ 教職員の数が多く、全員が集まる必要がある時に、適切な場所や机の数がない。多部制に移行する際も、校舎を大きく改装していないので、このような問題が起きるのではないかと。
- ・ 全ての部に共通のルール作りが求められる。その結果、3 部には制服の着用はなかったが、生徒からの不満も募り義務とした。

⁴⁷都立砂川高等学校 「平成 25 年度砂川高等学校教育プランの概要」

http://www.sunagawa-h.metro.tokyo.jp/kouchou_shitu/25sunagawa_edu_plan.pdf

⁴⁸都立砂川高等学校 ホームページ 「卒業生の進路」

～地域とのつながりについて～

- ・多部制を実施したが、地域からの認知度が低い。卒業生の中では、多部制に移行した際に、廃校になったと勘違いするものもいた。一方で、通信制の認知度は高い。
- ・周囲に宗教施設や団地があって、すぐ近くに中学校があるので、地域とのコミュニケーションがあまり必要とされない。
- ・砂川 OB 会があり、会長などが来ることがある。一方で、現役生との繋がりはいらない。

～その他～

- ・生徒は近隣の中学校出身が多い。
- ・少し前（聞き取り調査から3年前程）までは、近隣の中学校から10人前後の生徒が来るが多かった。
- ・しかし、近年ではその数も減り、中学校で何らかの問題を抱えていた生徒が増えた印象を持っている。

3-4 結果の考察とまとめ

ここでは、聞き取り調査の結果を設問ごとに考察する。

「各部の生徒に対する印象」については、1部に「真面目」、「大人しい」という印象が強かった。2部に関しては、「1部と変わらない」と述べる学校と、「やんちゃ」、「活発」述べる学校があった。3部（新宿山吹に関しては4部）に関しては、「既存の夜間定時制高校と変わらない」と述べる学校が多かった。つまり、部を新たに設けると、定時制と掲げていても、集まる生徒の印象は、既存のものに対して変化するのである。

「外国籍の生徒に対する印象・対策」については、地域によって差が出ている。当然、割合が高くなった高校においては、具体的な対策を行うことや「課題」として扱っている。一方で、外国籍の生徒が在籍したとしても、問題になっていない高校は、対策を行っていない。

「多部制の制度が引き起こす課題について」は、全ての学校が「意志統制が難しい」と述べている。また、学校によっては、「多部制によって、生徒や教師が使用出来るスペースがない」と述べている。一方で、意志統制の問題を解消するために、新宿山吹高校では「賢者」というシステムを積極的に採用している。

「地域との繋がりについて」は、多部制にしてから OB・OG 会との関係が低下している。特に、新宿山吹高校以外は多部制にする以前の夜間定時制があり、その OB・OG 団体と

の関係が低下している。制度や伝統が変化するなかで、どのように結びつきを作るのかが、今後の課題である。

4章 多部制定時制が抱える課題についての具体的な考察

この章では、聞き取り調査や様々な資料から浮かび上がった、多部制定時制の課題について具体的に考察する。

内容は大きく2つあり、「倍率について」と「意志統制の難しさ」に分かれる。さらに、後者に関しては、「制服について」と「生徒指導について」、「意志統制を阻害する原因について」の3つに分かれる。

4-1 倍率について

4-1-1 多部制定時制高校の倍率の変遷

ここでは、都立多部制普通科定時制高校の2009年から2014年までの倍率について考察する。試験の日程は、前期募集と後期募集に分かれていて、倍率は以下のようになった⁴⁹。

～前期募集～

市区町村名	学校名	2009年 倍率	2010年 倍率	2011年 倍率	2012年 倍率	2013年 倍率	2014年 倍率
千代田	一橋						
	1部	<u>2.22</u>	<u>2.11</u>	<u>2.17</u>	<u>1.83</u>	<u>1.56</u>	<u>1.86</u>
	2部	<u>2.47</u>	<u>2.31</u>	<u>2.92</u>	<u>1.44</u>	<u>1.61</u>	<u>1.22</u>
	3部	<u>1.00</u>	<u>1.25</u>	0.88	<u>1.92</u>	<u>0.92</u>	<u>1.00</u>
新宿	新宿山吹						
	1～4部	<u>1.63</u>	<u>1.55</u>	<u>1.79</u>	<u>1.53</u>	<u>1.49</u>	<u>1.53</u>
台東	浅草						
	1部	<u>2.58</u>	<u>2.47</u>	<u>2.25</u>	<u>2.31</u>	<u>2.19</u>	<u>2.31</u>
	2部	<u>2.47</u>	<u>2.22</u>	<u>1.86</u>	<u>2.33</u>	<u>1.81</u>	<u>2.31</u>
	3部	<u>1.67</u>	<u>1.67</u>	<u>1.33</u>	0.96	<u>1.71</u>	<u>1.17</u>

⁴⁹ 東京都教育委員会 「平成 21～26 年度 都立高等学校入学者選抜応募状況 分割後期募集・全日制二次募集」 より 筆者作成

杉並	荻窪						
	1部	<u>2.56</u>	<u>2.67</u>	<u>2.61</u>	<u>2.08</u>	<u>2.11</u>	<u>2.19</u>
	2部	<u>2.22</u>	<u>2.47</u>	<u>2.64</u>	<u>2.36</u>	<u>1.78</u>	<u>1.72</u>
	3部	<u>1.71</u>	<u>1.67</u>	<u>1.13</u>	0.83	<u>1.29</u>	<u>0.88</u>
八王子	八王子拓真						
	1部	<u>2.61</u>	<u>3.75</u>	<u>3.11</u>	<u>3.17</u>	<u>2.94</u>	<u>3.31</u>
	2部	<u>2.42</u>	<u>2.75</u>	<u>2.56</u>	<u>2.17</u>	<u>2.39</u>	<u>2.53</u>
	3部	<u>1.71</u>	<u>1.58</u>	<u>1.79</u>	<u>1.79</u>	<u>1.50</u>	<u>1.54</u>
立川	砂川						
	1～3部	<u>1.48</u>	0.97	<u>1.80</u>	<u>1.27</u>	<u>1.62</u>	0.93

～後期募集～

市区町村名	学校名	2009年 倍率	2010年 倍率	2011年 倍率	2012年 倍率	2013年 倍率	2014年 倍率
千代田	一橋						
	1部	<u>1.81</u>	<u>2.11</u>	<u>1.31</u>	<u>1.39</u>	<u>1.46</u>	<u>1.04</u>
	2部	<u>1.81</u>	<u>2.00</u>	<u>1.72</u>	<u>1.74</u>	<u>1.52</u>	<u>1.24</u>
	3部	0.83	<u>1.03</u>	<u>1.72</u>	0.81	<u>1.30</u>	1.00
新宿	新宿山吹						
	1～4部	実施せず					
台東	浅草						
	1部	<u>1.54</u>	<u>1.54</u>	<u>1.83</u>	<u>2.20</u>	<u>1.75</u>	<u>1.57</u>
	2部	<u>1.67</u>	<u>1.50</u>	<u>1.23</u>	<u>1.52</u>	<u>1.94</u>	<u>1.05</u>
	3部	<u>1.00</u>	<u>1.50</u>	<u>1.36</u>	<u>1.33</u>	<u>1.50</u>	0.97
杉並	荻窪						
	1部	<u>1.76</u>	<u>2.33</u>	<u>1.61</u>	<u>1.67</u>	<u>1.44</u>	<u>1.44</u>
	2部	<u>1.69</u>	<u>2.22</u>	<u>1.13</u>	<u>1.26</u>	<u>1.81</u>	0.83
	3部	1.00	<u>1.28</u>	<u>1.28</u>	<u>1.13</u>	<u>1.05</u>	0.92

八王子	八王子拓真						
	1部	<u>2.46</u>	<u>2.53</u>	<u>1.98</u>	<u>2.07</u>	<u>2.02</u>	<u>1.91</u>
	2部	<u>1.72</u>	<u>3.31</u>	<u>2.26</u>	<u>2.20</u>	<u>1.50</u>	<u>1.98</u>
	3部	<u>1.47</u>	<u>2.08</u>	<u>2.25</u>	<u>1.75</u>	<u>2.33</u>	<u>1.14</u>
立川	砂川						
	1～3部	実施せず		<u>2.50</u>	<u>1.68</u>	<u>2.16</u>	<u>1.12</u>

4-1-2 表に対する考察

前項で紹介した表から考察出来ることは、以下の通りになる。

まず、2つの募集を通して、午前部と午後部に対する倍率が高いことである。これは、多部制の実施によって、各部募集人数が少なくなる事が、1つの原因である。そこから、「自由な校風」、「3年で卒業出来るので、全日制高校と変わらない」、「近くにある高校だから」といった理由が結びつき、倍率を上げる。

次に、夜間部に関しても、2つの募集を通して、倍率が出ることの方が多いことである。これも、募集人数の少なさが1つの原因である。また、既存の夜間定時制がその市区にない所は、後期募集の時点で合格しないと、その地区で夜間に授業を受けられない⁵⁰。よって、高い倍率が生じる。

その他に、2009年と2010年募集に関しては、どの高校も倍率が高く出ることである。これは、1節の「夜間定時制高校の倍率」でも述べたが、原因の1つとして、経済的に不況によって、学費の安い公立高校の需要が伸びたことが関係している。

4-1-3 まとめ

都立多部制定時制高校に関しては、入試において高い倍率が出る事が多く、特に区外においてその傾向が高かった。

そもそも、都立の多部制定時制高校は、1つの高校を除いて⁵¹夜間定時制高校を統廃合して作られた。つまり、新しい形の定時制高校とはいえ、夜間定時制の特徴をある程度は受け継ぐ必要がある。なので、特徴の1つである「低い倍率」に関して守る必要がある。

それを、実行する手段は沢山あるので、ここでは提言しない。しかし、その選択肢の一つ⁵²として、「夜間定時制」の学級数増や廃止校の復活は必要である。特に、東京都におい

⁵⁰ 八王子拓真高校と八王子市が該当する

⁵¹ 新宿山吹高校が該当する。

⁵² 全日制高校の新設や募集人数の拡大などが他にある。しかし、東京都においては、それらを行う傾向は見えにくい。

ては、私立高校が非常に多い。つまり、経済的な不安があれば、そこに辿り着けない生徒が出る。そのような生徒に、どのように高等教育の機会保証を行うのか、改めて問い直す必要がある。

4-2 意志統制の難しさ

4-2-1 多部制定時制高校における制服について

ここでは、多部制定時制高校の「意志統制の難しさ」を考察するために、制服に対する取り扱いを基に考察する。

4-2-1-1 夜間定時制高校と制服の関係

公立夜間学年制定時制高校の特徴として、「制服がない」ということがある。

1994年に発刊された、南悟の『定時制高校青春の歌』は、夜間定時制の生徒が作成した短歌から、定時制高校の様子を描いた本である。そこに、全日制高校から定時制高校に転校して来た生徒が、合格発表の際に学ランを着ていて、筆者の南に「カッコイイ学らんやなあ、そやけどここでは似合わへんで」と言われる場面がある⁵³。このように、夜間定時制にとって、制服がないことは大きな特徴である。

実際に、都立夜間学年制普通科の定時制高校 21校を調べてみても、制服に対する記載はない。一方で、これらの学校は普通科を設置している。そちらでは、制服を設けている所がある⁵⁴。他にも、都内に唯一の私立で夜間定時制課程を持つ、駿台学園高等学校では制服を設けている⁵⁵。

4-2-1-2 都立多部制定時制高校と制服の関係

前項で説明した、都立夜間定時制高校とは異なり、多部制定時制高校では制服を設けている学校がある。

しかも、制服を設けていても、各校で取り扱いが異なる。大きく分けると、制服を完全着用として扱う学校から、特定の行事において着用を求める「標準服」として扱う学校の2つになる。

⁵³ 南 悟 「定時制高校青春の歌」 1994 岩波ブックレット p15

⁵⁴ 都立松原高校では、全日制平成 21 年度入学生より制服着用を始めたが、その際にも定時制では制服を設けなかった。

⁵⁵ 駿台学園 「学校案内パンフレット」 2015

<http://www.sundaigakuen.ac.jp/introduction/pamphlet/>

今回私が研究対象として扱った、都立多部制普通科定時制高校 6 校においては、制服の扱いが以下の通りとなる。

校名	制服の有無	制服の扱い
新宿山吹	無し	なし
一橋	無し	なし
荻窪	有り	標準服（準ずる服装でも可）
八王子拓真	有り	標準服（他校のものは不可）
浅草	有り	常時着用
砂川	有り	常時着用

4-2-1-3 制服の扱いに対する各学校の見解

前項で紹介した通り、多部制定時制では制服の扱いが各校異なる。ここでは、各学校の制服に対する説明を取り上げて考察する。

まず、制服を設けていない学校である。新宿山吹高校では制服について「制服はありません、自由だから自分の思いのままにコーディネートした服装で授業を受けられます。」と説明している⁵⁶。このような扱いの場合、私服を着用する生徒もいる一方で、学校指定でない制服を着用する生徒がいるようになる⁵⁷。

次に、制服を設けて標準服として扱う高校である。荻窪高校では、制服について「学校行事や式典のときには、標準服か、それに準ずる服を着用すること」ときまり付けている⁵⁸。その他、標準服の購入義務を設けてはいない。しかし、高校生として好ましくない制服の着用は許可していない。八王子拓信高校では、標準服は定まっているが、購入義務もなく、特定の行事で着用する義務も設けていない。

最後に、制服を設けて常時着用を義務付けている高校である。砂川高校では、制服を常時着用する根拠として、「自己の確立」、「安全性の確保」、「社会性の意識化」を挙げている⁵⁹。

4-2-1-4 常時着用するようになった経緯と問題点

⁵⁶ 都立新宿山吹高等学校 ホームページ 「Yamabuki style」
<http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/16/9.html>

⁵⁷ 同上に掲載されているページの写真より

私服を着る生徒がいる一方で、制服を着る生徒もいる。

⁵⁸ 都立荻窪高校 ホームページ 「標準服」
<http://www.ogikubo-h.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/21/4.html>

⁵⁹ 都立砂川高校 ホームページ 「制服」
http://www.sunagawa-h.metro.tokyo.jp/dayclass/seito_shido/seifuku/f_seifuku.html

定時制高校における制服の扱いを辿れば、制服を常時着用するのは非常に珍しいことである。

その経緯を伺ってみると、砂川高校の場合は「ある年までは、1部2部には制服を着用させて、3部には設けていなかったが、生徒からの不満が募った。結果、制服を徹底させる方向に動いた⁶⁰」という出来事が原因であった。ここにおいて、既存の夜間定時制とは異なり、多部制特有である、『制度を徹底させなければならない（意志統一の難しさ）』という問題点が浮かび上がる。

ところで、制服に関しては、ある年に入学試験を合格した生徒が、突然の保護者の失業に制服代を払えなくなり、入学辞退するという出来事があった⁶¹。制服を導入することによる利点はあるが、費用がかかり、経済的な不安定な立場にいる生徒が困窮する問題点もある。

4-2-1-5 まとめ

複雑な背景を持つ複数の生徒に対して、共通のルールを設けさせる場合、簡単なものでないと、そこから漏れ落ちる人が現れる。その程度を知るためには、様々な取り組みをお互いに共有する必要があるだろう。だからこそ、定期的な多部制定時制高間の情報交換が出来る場を設けなければならない。

また、多部制定時制高校は、夜間定時制高校を統廃合して建てたものが多い。だからこそ、校則に関しても、今まで培ってきた伝統や特徴を考慮して、判断する必要がある。

4-2-2 多部制定時制高校における生徒指導について

4-2-2-1 各部による指導観の違いと生徒指導

定時制高校における意志統制の難しさは、生徒指導に関しても影響を与える。

例えば、問題行動を起こした時の処理方法に違いが出てくる。都内の多部制定時制高校に勤める教員 H（仮名）によると、3部の生徒が酒気帯びで登校した時に、3部の担任団はその生徒を帰すという対応をとった。しかし、そのやり取りを他部の担任団に話すと、「1部なら特別指導だったかも」という言葉が返ってきた⁶²。

⁶⁰ 2014年12月10日 筆者による聞き取り調査 より

⁶¹ 同上

⁶² 都立定時制を守る会・連絡会 2013年度4月集会 「私にとっての定時制」
<http://homepage3.nifty.com/save-teiji/news115.pdf>

4-2-2-2 生徒指導に対する考察

このように各部によって対応が異なることは、生徒や教員からの不満を生じさせる。前述した制服の徹底に関しても、各部の対応が異なるために、生徒からの不満出たのが原因であった。

ところで、前述した問題の原因を、教員 H は担当する部によって、担任団の受け止め方が異なるからと述べている。確かに、私が行った聞き取り調査の中でも、各部に対するイメージというのは、それぞれ異なっていた。

しかし、この問題の本質は、その前提となる「日頃から教師や生徒が一同に集まって、情報共有出来る場と機会の欠如」ということにある。そのことについて、次項で考察する。

4-2-3 意志統制を阻害する原因について

4-2-3-1 多部定時制高校の教員数について

聞き取り調査の中で、意志統制の難しさの話題が出た時に、新宿山吹高校の D 副校長は「元々、広い職員室がなく、点在していること」と述べていた。また、砂川高校のエ副校長は、「全ての教員が集まる適切な場所がない」と述べていた。他にも、前項で紹介した教員 H は、「職員会議になかなか全員集まらない⁶³」と別の話で述べている。

まず、教職員数に関して考察する。すると、例えば新宿山吹高校の場合は、校長 1 人と副校長 2 人に対して、教職員が 167 人いる⁶⁴。教員系⁶⁵に関しては 140 人（校長、副校長を除く）であり、勤務が 2 つに分かれている。それでは、仮に主幹教諭 5 人と合わせて対応したとしても、負担が大きくなり、機会は減るのは当然である⁶⁶。

4-2-3-2 多部制定時制高校の環境について

次に、話し合う場に余裕があるのかについて考察する。例えば、新宿山吹高校には、生徒相談室があり、2 名の教員が教育相談活動を行っている。しかし、教育相談室の平成 25 年度利用件数は以下の通りになっている⁶⁷。

⁶³ 同上

⁶⁴ 新宿山吹高等学校 平成 26 年度 「学校要覧」 p45

⁶⁵ 例えば、市民講師が 11 名いる。

⁶⁶ 都立砂川高校に関しても、教職員は定時制と通信制合計 80 名いて、常勤の教員は定時制に 40 人いる。そのほか、非常勤教員が 8 名、非常勤講師が 19 名いる。

出典：都立砂川高等学校 「平成 26 年度学校要覧」 p36

⁶⁷ 脚注 64 と同じ 41p

件名	年間件数
休憩時の利用	6166（ピークは8月 819件）
性格・人間関係	518
教員間の協議	499(ピークは6月 71件)
新入生面談	172
不登校	123
保護者面談オープンデイ	52

つまり、教員による使用が高いのである。ここから、以下のようなことが考察出来る。

まず、空いている教室や部屋が少ないことである。これは、多部制定時制高校の時間割の特徴が影響している。つまり、常に教室が授業で使用されているので、様々な会議で使用出来る場所が限られる。そして、結果として本来の利用目的ではない、生徒相談室が使用されるのである。

4-2-3-3 まとめ

前項までの調査以外にも、意志統制を行う場所や機会の確保は困難であることは、聞き取り調査にもあったことである。

多部制という制度である以上、全ての部で情報共有をしなければならないため、この問題は夜間定時制高校には現れにくい。しかも、多部制に適応するための校舎を建てた、新宿山吹高校でさえ苦しんでいる。つまり、他の高校は校舎を建て替えてないので、より苦しんでいるのである。

この問題は、校舎を広くすることや、多部制の制度を学校毎に変化させれば解消出来るが、簡単に実行出来ることではない。だからこそ、現時点においては、各校でどのような工夫をしているのか、情報共有をする場が必要がある。

結論

● 本研究のまとめ

今回は、都立多部制定時制高校が抱える問題について、聞き取り調査や文献・資料を用いて考察した。

結果として、都立多部制定時制高校は、全ての部を合わせて学校運営（経営）するので、教職員や生徒が意志統制の難しさを抱えている事がわかった。特に、難しさは会議や指導、学則、行事など場面に現れる。

また、多部制では、沢山の教師と生徒が必要となり、それらが常に動く必要がある。しかし、制度に合わせられるような学校環境が足りていないことがわかった。その一方で、賢者のようなシステムによる工夫がなされていることもわかった。

他にも、多部制定時制高校は全体的な倍率が高く、特に区外において高い倍率が出ていることがわかった。

これらの課題については、多部制の制度改革、学校の改修工事、学校の新設をすれば解消はされる。しかし、合意に至るまでには、非常に時間が必要となる。なので、早急に出来る対策は、都内の多部制定時制高校を全て集めて、お互いの取り組みや課題を共有する場を設けることである。

●本研究の限界

本研究の調査対象は、都立普通科多部制定時制高校 6 校である。そのため、本研究で述べた事が、全ての多部制定時制高校（都内のチャレンジスクールも含む）に当てはまるとは限らない。

また、多部制定時制高校の倍率に関しては、都道府県の私立と公立校の割合によって大きく異なる。なので、こちらに関しても、全ての多部制定時制高校に当てはまるわけではない。

謝辞

今回の研究において、多忙な時期であるにもかかわらず、聞き取り調査を快諾して頂いた、都立荻窪高校 B 校長、A 先生、都立一橋高校 C 副校長、都立新宿山吹高校 D 副校長、F（仮名）先生、都立砂川高校 E 副校長に、心から感謝させて頂く。

また、聞き取り調査を行うにあたって、最初の機会を提供して下さった、私の教育実習指導教員である都立西高校の G（仮名）先生に、心から感謝させて頂く。

そして、研究会を通して、様々な発想やご指摘を頂いた、小熊英二研究会に関わる全ての人に、心から感謝させて頂く。

最後に、私の卒業論文指導教員であり、講義では約 4 年間、研究会では約 2 年間指導して頂いた、小熊英二教授に、心から感謝させて頂く。

参考資料

都立南葛飾高等学校（葛飾区）定時制課程 生徒出身中学校割合⁶⁸

平成26年度 上位5位

市区町村名	人数
葛飾区	126
江戸川区	64
足立区	19
墨田区	13
江東区	9

都立大崎高等学校（品川区）時制課程 住居地⁶⁹

平成26年度上位5位

市区町村名	人数
品川区	43
大田区	27
世田谷区	6
目黒区	5
港区	8

⁶⁸ 都立南葛西高等学校 ホームページ 日課表 生徒在籍数（定時制）
<http://www.minamikatsushika-h.metro.tokyo.jp/cms/html/category/72/index.html>

⁶⁹ 都立大崎高等学校 ホームページ 在校生の現況
<http://www.osaki-h.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/176/file1137.pdf>